

とんな子みっけ!

先日、小学校にお邪魔してきました。年長児が小学校にスムーズに通えるよう、幼稚園・保育園と小学校がお互いに連携を取り合おうというもので、1年生の実態や現状を把握することで小学校への進学を意識した活動を取り入れるねらいがあります。子どもたちが無理なく小学校に入学できるようにしてあげたいという思いは先生たちの願いですから、張り切って!参加してきました。

参考になることがいくつかあった中で、小学校の先生方との協議会でのことをお話したいと思えます。



小学校の先生方からのお話の中で、「就学前の子どもたちには冷たいと思うくらい、目も手もかけずにいてほしい」「学校は勉強をするところ。目も手も掛けられなくなるので、「何事も自分でやる」「自分で自分の気持ちを伝える」習慣を、早くから意識させてほしい」ということがありました。

幼稚園に入園してくる子どもたちは、異なる家庭環境の中で育ち、初めての集団生活ということや、経験の有無、月齢の差があり、オムツが取れていない子がいたり、洋服のボタンが出来なかったり、おもちゃの貸し借りだっままならぬ子もいるのが当たり前です。幼稚園では、そんな子どもたちを集団生活の流れの中でフォローしながら、やがては自分で行えるように、褒めたり励ましたりして取り組めるように関わって行きます。目も手も声も掛けながら、一緒に過ごしていくことが欠かせないのです。

先日、登園時にバス通園の子どもたちを出迎えに行くと、「はい!連絡帳」と

年長さんが渡しに来ました。その日は年長プールの日。不安なことがあって、お母さんに手紙を書いてもらったようです。



『プールで飛び込みをするのが嫌なようです。その他は頑張ると言っていますのでよろしくお願いします。』と書いてありました。それを読んだ先生は、「自分が嫌なら自分で伝えることが大事」なので、「〇〇ちゃん、プールで飛び込みするのが嫌なの?それなら、コーチに自分でお話ししよう。」と声をかけました。すると、「ん?」とびっくりしたような顔つきで先生を見ます。飛び込みをやらなくていいと思っていたのか?先生がコーチに言ってくれると思っていたのか?わかりませんが、先生と一緒に歩いて行って、自分でコーチに話しをしました。結局、コーチにさとされて手を繋いでもらって飛び込みを頑張ることにしたのです。プールが終わった後に「自分でコーチにお話ができるから、今度はお母さんにお手紙を書いてもらわなくても大丈夫ね!」と伝えると、大きく頷いていました。まだ飛び込むことに不安はあるようですが、少し前向きな気持ちになったようです。

そんな年長さんの姿を見ると、いつも目や手をかけるのではなく、時には冷たいと思うほど、背中を押ししたり待ってあげることが必要だということがわかります。そうして出来るようになったことが大きな喜びや自信となり、また次への挑戦の気持ちに繋がって行きます。

幼児期に手も目も声も掛けられながら、自分でやることを重ねていった経験が、小学校に行ってから自信を持って力を発揮する子に育って行くのだと思います。小学校にいったら、いきなり自分でやれというのではなく、一番身近にいるお父さん・お母さんなら、成長に応じて、手をかけたり手をかさなったり、上手な手加減出来るはずですよ。



とんな

「とんな」は、ようちえんで起こる
とんなとき・とんなこと・こ～んなにを
折々お届けします。

だれのせい?

中学生が職場体験で年少組のお部屋にやって来ました。どちらも緊張気味。そこで先生が、「お兄さんこれ上手だよね!」と声を掛け、みんなでカプラでタワーを作ることにしました。

剣にしたりおままごとの材料にして使うことが多かった年少組は、少し積み上がるだけで「すごーい」と興奮気味。勢いづいて、どんどん上に積んで行くのでタワーが傾いて行きます。それをお兄さんが慌てて修正してくれませんが、追いつきません。雪崩れが起きて来ても積むことを止めないので、とうとう崩れてしまいました。すると、「あ～あ、お兄ちゃん上手じゃないね。」と年少組。

お兄ちゃんは「え～!」と苦笑い。でも怒ることなくまた積み上げてくれました。お兄ちゃんの優しさに甘えて、またどんどん積む年少組でした。

年少組



「もっと高くしよう!」「このくらい!」と、気持ちが膨らむ年少組。



「お茶のおけいこ楽しかった～！」と、事務所の窓をのぞいて嬉しそうに報告する子どもたち。「尚美先生、白いお着物を着ていたよ!」「今日のお菓子はカステラだったよ!」と興奮冷めやらず～といった様子。この勢いでお茶のおけいこに臨んでいたら大変!と心配するくらいです。



雨だってなんのその! 相合傘でお茶のおけいこにお出掛けする年中組。

そんな年中組も、一步お寺に足を踏み入れた途端に背すじがピンと伸びたり、静かに靴を脱ぎ揃えたりして、動作が丁寧になります。そして、お作法を教えていただいている間は、正座をして話を聞き集中が続きますから、大人は、“ん?楽しい?”と首をかしげてしまいますが、子どもたちにとっては、初めて教わることすべてが新鮮。興味をもったことは楽しくて仕方ないのでしょう。



やっと“あおすじアゲハ”が孵化。さあ蝶々をどうするか? みんなで議論してました!



ダンゴ虫や蝶々の幼虫・てんとう虫など・・・捕まえる度に、「飼いたい!」と先生に交渉している年長組。飼い方を調べたり、エサを探しに出掛けたりと一生懸命。時には凶鑑の数百匹もある幼虫の中から、種類を調べたりして、興味をもったことには探究心や根気をも発揮させるのだと、改めて感じています。そして、飼う準備が整うと、今度は観察ケースにかじりついて離れなかったり、独占したくて観察ケースごと持ち歩いたり、中には手に乗せて抱っこ!?していた子もいて、愛着が深いのです。

そんなある日、幼虫がさなぎになって蝶々になるのを楽しみに観察していました。登園すると、靴を脱ぎっ放しで観察ケースを覗く子どもたち。すると、ある朝「さなぎに穴が開いている!」と大騒ぎ。でも蝶々は見当たりません。下に黒っぽいのがゴロンと落ちていました。「うんちかな?」「ダンゴ虫じゃない?」とざわざわ・・・いろいろ調べてみると、その正体は蜂の幼虫。つまり寄生虫だったのです。蝶々が出て来ることに期待している中、また新たな生き物との出会いに複雑な思いでした。

夏休みに向けて、観察ケースの住人はどうなるのか?「お家に連れて帰る!」と言い出したら～よろしく願いします。



お手製の“さなぎポケット”これで安心して殻から出て来られるよ!

こ～んな子みっけ!



歯科検診の日、テスターを使って歯磨きをしました。「ピンクのお薬付いてる?」鏡でチェック中!



園庭のやまももを食べたときのお顔・・・